



名大トピックス

No.117 平成15年2月28日発行 名古屋大学総務部企画広報室 編集 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Te(052)789-2016
ホームページ URL <http://www.nagoya-u.ac.jp>

平成14年度 高等研究院研究プロジェクト採択者が決定

プロジェクト採択者一覧

	氏名	所属部局	職名	研究プロジェクト名
1	有本 博一	大学院理学研究科	助教授	天然有機分子の集積化による機能発現
2	岡田 猛	大学院教育発達科学研究科	助教授	創造的認知プロセスの統合的解明
3	貝淵 弘三	大学院医学系研究科	教授	動脈硬化性疾患の病態解明と創薬
4	北島 健	生物分子応答研究センター	助教授	生命情報のハードウェアを解析・構築する糖鎖生命情報科学の創出
5	楠見 明弘	大学院理学研究科	教授	1分子ナノバイオロジーの開拓
6	佐藤 彰一	大学院文学研究科	教授	テキスト科学・史料学・マイクロヒストリー - ポスト・ローマ期国家構造研究の新天地 -
7	篠原 久典	大学院理学研究科	教授	新世代ナノカーボン物質の創製、評価と応用
8	関 一彦	物質科学国際研究センター	教授	有機デバイス関連界面の解明と制御
9	土井 正男	大学院工学研究科	教授	多階層的バイオレオシミュレータの研究開発
10	丹羽 公雄	大学院理学研究科	教授	素粒子標準理論の検証に関する日欧国際共同研究
11	福井 康雄	大学院理学研究科	教授	サブミリ波からテラヘルツ帯に至る宇宙と地球大気の開拓的観測研究
12	松本 邦弘	大学院理学研究科	教授	生命現象を制御する分子シグナルネットワークの解明
13	森永 正彦	大学院工学研究科	教授	複合機能構造形成プロセッシングの創成
14	八島 栄次	大学院工学研究科	教授	超構造らせん高分子
15	家森 信善	大学院経済学研究科	助教授	経済・金融再生のための金融システム改革の研究

(50音順)

CONTENTS

平成14年度高等研究院研究プロジェクト採択者が決定.....	2	理学研究科が第4回理学懇話会を開催.....	7
東海・東南海地震に備えて学内体制の整備を図る！.....	3	理学研究科が第1回坂田・早川記念レクチャーを開催.....	8
地域の小学生児童との小さな国際交流！.....	4	附属図書館で電子図書館講演会が開催される.....	9
アフガニスタン女性支援シンポジウムが開催される.....	6	本学関係の新聞記事掲載一覧(15年1月分).....	10
大学入試センター試験が実施される.....	7		



平成14年度 高等研究院研究プロジェクト採択者が決定

高等研究院の研究プロジェクト公募（平成14年11月22日締切）には、4種類の研究タイプに合計で35件の応募がありました。

応募者に対する審査は、高等研究院会議の下に設けられた予備審査委員会で書類選考がおこなわれ、必要と判断された場合には応募者へのヒアリングも実施されました。また、応募者が指名した2名の外部評価者による意見書も審査の材料となりました。予備審査委員会での審査結果を踏まえて、高等研究院会議で投票がおこなわれ、15件の研究プロジェクトが採択され、その結果は平成15年1月21日に公表されました。

審査は、～の各研究タイプの趣旨との整合性を考慮しつつ、以下の3項目の審査基準を踏まえて総合的な観点からなされました。

- (1) 研究プロジェクトが独創的かつ先駆的な研究を目指すものであって、高度な研究成果が期待されるものであること
- (2) 研究プロジェクトが名古屋大学の高度な研究水準を発信するにふさわしいものであること
- (3) 研究プロジェクトの研究代表者および研究メンバーが優れた研究実績を有するかあるいはその可能性を有すると認められること

採択された研究プロジェクトの代表者は、2月1日付けで高等研究院の流動教官に任ぜられ、そこで研究に専念することとなります。流動教官には顕著な研究成果をあげるにとどまらず、本学の研究水準の全般的向上、および本学の知的存在感を高める活動へ貢献することが大いに期待されます。



記者会見（1月21日）



高等総合研究棟 完成予想図（平成15年度完成予定）



東海・東南海地震に備えて学内体制の整備を図る! 地震防災力の向上を目指し、災害対策室を設置

名古屋市を含む愛知県の広い範囲が新たに地震災害強化地域に指定されたことを受けて、本学及び地域における地震防災力向上を図るため、平成13年9月に学内措置施設として設置された名古屋大学災害対策室は、1月23日、理学部E館において、松尾総長揮毫による看板の上掲を行いました。

看板上掲に先立ち、防災の専門家でもある松尾総長から災害対策室の設置の経緯及び同室の役割について、また、安藤災害対策室長から同室の今後の取り組み計画についてそれぞれ説明があった後、松尾総長、安藤室長、伊藤副総長、佐々木副総長、久野環境学研究科長及び小池事務局長による看板の上掲が行われました。当日は雨天にもかかわらず多数の出席者があり、同室の今後の活動への期待が大きなものであることが伺われました。

また、同室では、学内教職員向けの地震防災連続セミナーを毎月一回開催することとしており、1月15日には第一回セミナーが、工学研究科大会議室を会場に開催されました。

セミナーでは、「東海地震・東南海地震の真の姿」をテーマとして、安藤室長から、(1)東海地震とは、(2)最近注目され始めた理由、(3)地震予知は可能か、(4)最近気になること、(5)東南海地震・南海地震とは、(6)起きたらどうなるか、(7)名古屋には他の地震は起こらないのか等について分かり易く講演が行われました。講演後には活発な質疑応答が行われ、参加者の地震防災に対する意識の高さを感じさせるセミナーとなりました。

なお、次回以降の同セミナーは、各職場や家庭における実用的な防災対策や救急医療の問題など重要な問題を順次取り上げていく予定です。

[災害対策室の主な業務]

- 防災に関する資料の収集と整理
- 本学での防災教育プログラムの作成
- 学内における防災担当者の勉強会開催
- 学内外の防災関連専門家との連携と支援
- 部局防災対策マニュアル作成支援
- 自然災害対策専門委員会への情報提供 等





- 社会連携事業 - 地域の小学校児童との小さな国際交流！

2月14日、本学の外国人留学生19名が尾張旭市立三郷小学校を訪問し、「総合的な学習・外国を知ろう」の企画に参加して、同校6年生の児童118名との異文化交流を深めました。

この企画は、児童が事前に調べた留学生それぞれの出身国の概要等をその留学生に対して発表し、また、留学生と直に接することによって異文化理解を高め、さらに、留学生には日本の文化や歴史に触れる機会を増やすことを目的として行われたものです。

当日は、留学生センターの田中、松浦 助教授が、昨年10月に渡日した14か国19名の日本語・日本文化研修生を引率して、マイクロバスで同校を訪問しました。はじめに全体会で留学生一人一人から母国の紹介を行い、引き続き、地域の伝統文化である和太鼓や棒の手保存会の演技を鑑賞しました。その後、留学生1人に対して児童5～7名のグループに分かれて、竹馬・百人一首・折り紙・お手玉など日本の遊びを通じての交流を行い、また給食を一緒にとったりするなどの交流

が進むにつれ、最初は緊張気味だった児童も次第に留学生とうち解け、日本語・日本文化を学ぶために留学している学生にとっても大変有意義な一日となりました。

留学生センターでは、今回の企画への参加のほか、千種生涯学習センターとの共催事業「異文化を学ぶ」に小池事務局長を講師として派遣するなど社会連携推進室と連携した交流事業を展開しています。

【地域社会と留学生の交流の推進及び貢献活動(平成13年度)】

- 1．学校との交流事業：19事業（小学校11、中学校4、高等学校4）
- 2．ホームステイ：3事業
- 3．市民講座等：10事業
- 4．その他民間企業等との交流：9事業

その他、法学・経済学・国際開発・国際言語文化研究科でも、地域社会と留学生の交流事業に積極的に参加しています。



留学生の出身地について生徒が発表



カード遊び

三郷小学校での交流に参加しての感想

今日の交流会は、とっても楽しかったです。はじめは、少し緊張したけど、留学生の人は優しくていい人だったので、だんだん仲良くなれて、むこうの国のことや日本のことなどいろんな話をしました。私達の班は、学校案内をしました。案内している時に、留学生の人が「きれいな学校ですね。」と言ってくれたのが嬉しかったです。住所も教えてくれたので、手紙も書きたいなぁと思いました。本当にいい思い出になりました。
(6年2組、女性)

今日、国際交流会をして、私たちのグループはマフナズさんというイランの人に来てもらいました。マフナズさんは私たち全員の名前を一生懸命覚えてくれてとてもうれしかったです。マフナズさんはゲームを覚えるのもとても早くてすごいと思いました。私たちが手作りで作ったマスコットや手紙を一生宝物にすると約束もしてくれました。マフナズさんのEメールを教えてもらって、帰ったらすぐにメールを送ってねと言われました。国際交流会をやって、イランに行きたいと思いました。
(6年2組、女性)

私は、最初、交流会があんまり気がすきませんでした。でも実際に会ってみて、ものすごく楽しかったです。初めて会うときはドキドキしていたけどさよならのときは、とっても寂しかったです。また、交流会をしたいです。
(6年2組、女性)

みんなはよくイランについて調べてすばらしい発表でした。本当に感動しました。みなさんチャンスがあったら是非イランへ遊びに来て下さい。どうもありがとうございました。
(イラン、マフナズ)

今日はすごい楽しい一日でした。三郷小学校の子供の親切と優しさに感動しました。自分が小学校の頃のことをいろいろ思い出したり、新しいものをいっぱい経験しました。忘れられない一日でした。
(中国、ミン)



抹茶をたてる



竹馬に挑戦



給食



棒の手の実演



アフガニスタン女性支援シンポジウムが開催される - アフガニスタン女性課題省副大臣が訪問 -

2月3日、大学院国際開発研究科及び法政国際教育協力研究センターでは、国際協力事業団（JICA）女性・環境課及び同アフガニスタン支援室からの要請を受けて、共催により「アフガニスタン女性支援シンポジウム - 女性のエンパワーメントと家族法」を開催しました。

同シンポジウムでは、日本のアフガニスタン女性支援のあり方について意見交換を行うために内閣府の招聘により来日した、アフガニスタン女性課題省のタジュワル・カカール副大臣による基調講演が行われ、四半世紀にわたる戦争の被害で、現在多くの孤児と寡婦が生活に困窮している現状を紹介し、教育・医療・雇用の創出への支援の必要性について述べられました。

引き続き、中西久枝 国際開発研究科教授による、他のイスラーム社会の事例として革命後イランの家族法の変遷についての報告が行われた後、加賀山茂 法学研

究科教授及び原山恵子 弁護士（名古屋第一法律事務所）から、日本の民法における家族と女性の地位の変化に関する報告がありました。

会場からは、様々な意見や質問が出され、家父長制社会における女性のエンパワーメントと法整備の課題について活発な議論が繰り広げられるなど、公開討論会の場を提供できた意味からも大変有意義なシンポジウムとなりました。

なお、シンポジウム終了後、同副大臣は、セクシュアル・ハラスメント相談所及び博物館を訪問し、特に博物館の第5回特別展「遥かなるアフガニスタン 名古屋大学中央アジア栄養適応調査隊 - 1968 - 」では、栄養適応調査のパネル、展示標本、ラピスラズーリ、民族衣装、平山郁夫東京芸術大学長の35年前のスケッチ風景の入った白黒写真アルバム（高橋隊員撮影）等の展示物を興味深げに見学しました。



アフガン女性の現状を話す
カカール副大臣



伊藤副総長室にて 男女協同参画等について会談



足立博物館長から説明を受ける副大臣



大学入試センター試験が実施される - 本学関係会場で7,100名が受験 -

平成15年度大学入学者選抜大学入試センター試験が、1月18日、19日、全国693会場で実施され、本学関係では、東山キャンパスや学外の高校など9会場で約7,100名が受験し、全国で約556,000人が受験しました。

試験当日は、朝早くから受験生が豊田講堂やグリーンベルトに集まり、引率の教師等から激励を受けたり、受験にあたっての注意事項を聞く姿があちこちで見られました。

一日目は外国語、地理歴史、数学 が、2日目には国語、理科 、公民がそれぞれ実施されました。



理学研究科が 第4回理学懇話会を開催

理学部・理学研究科は、「第4回理学懇話会」を12月15日にシンポジオンホールにおいて開催し、一般市民を中心に本学の教職員・学生を含め約100名が参加しました。

この懇話会は、広報活動の一環として、最先端の研究の現状等について教職員、大学院学生及び学部学生を対象にわかりやすく説明し、同分野の研究だけでなく異分野の研究を理解しあうことにより、相互に研究上の刺激や活力を得る場となることを目指して、平成13年度から企画されたものです。今回は広く研究成果を社会に発信し、理学部・理学研究科と社会との連携をより深めるために、開催日を日曜日とし、広く一般市民にも呼びかけて開催しました。

懇話会は、山下理学研究科長のあいさつから始まり、地球惑星内部のダイナミクスを研究している吉田茂生助教授から「地球の歴史を省みてわれわれの生を考える」をテーマに、「地球史7大事件」を軸にして、宇宙の原子分子からダストの生成、惑星の形成、生命の起源や地球環境の変遷等、地球誕生から現代までの出来事が説明されました。続いて、地球深部流体に着目した地球化学的地震予知を研究している川邊岩夫教授から「地震発生前における地下水ガス成分の変化」をテーマに、地下水ガス成分と地震発生の相関関係について、養老断層や阿寺断層に位置する長島温泉、岐阜県瑞浪市白狐温泉での観測データに基づいて、具体的な事例が説明されました。両講演とも、会場に訪れた多数の一般市民にもわかりやすい内容で、講演後も活発な意見交換や質問がありました。



理学研究科が第1回 坂田・早川記念レクチャーを開催

理学研究科は、12月27日、名古屋市科学館サイエンスホールにおいて「第1回坂田・早川記念レクチャー」を同科学館との共催で開催しました。この記念レクチャーは、素粒子・宇宙物理学分野で顕著な業績をあげた坂田昌一、早川幸男 両教授（ともに故人、元理学部）の業績をたたえ、後進の育成を目的として設立されたもので、今後も毎年開催が予定されています。

レクチャーでは、山下 理学研究科長および樋口敬二 名古屋市科学館長（本学名誉教授）によるあいさつに始まり、三田一郎 同研究科教授により坂田教授の研究業績が説明された後、「名古屋大学大学院理学研究科顕彰に関する内規」に基づき、山下研究科長から講演者

の益川敏英 京都大学基礎物理学研究所長へ顕彰が行われました。これは、益川氏が坂田研究室に大学院生として在籍し、その時の研究を後の小林・益川理論へと大きく発展させたことを顕彰するもので、続いて、坂田、早川両教授のご家族に賞状とメダルが授与されました。

その後の記念講演では、益川氏から、「坂田理論が切り開いたもの」をテーマに、ご自身の生い立ちや、高校生から研究者にたどり着くまでの道のり、アドバイス、坂田教授の研究に対する姿勢等について講演が行われ、300名の受講者は真剣に聞き入っていました。



樋口 名古屋市科学館長による開会のあいさつ



講演中の益川敏英氏



顕彰を行う山下研究科長



附属図書館で電子図書館講演会が開催される

12月11日、附属図書館多目的室において、全米科学財団（NSF:National Science Foundation）の Yi-Tzuu Chien 博士による特別講演「社会移行期における電子図書館の役割：米国からの洞察」が、情報連携基盤センター及び附属図書館研究開発室の協力を得て開催されました。

Chien 博士は、長年にわたって、同財団において研究開発管理を担当し、電子図書館戦略構想（DLI：Digital Library Initiatives）の立案、指導を行ってこられた方です。DLI 構想への取り組みは、欧米、日本、中国、韓国を始め、様々な国で活発に行われており、その一翼を担うアメリカの DLI 構想はたいへん刺激的なものでした。

この講演で同博士は、電子図書館が社会の変革に及ぼす影響を広い視野から述べられました。その内容は多岐にわたり、DLI が政府、大学、コンピュータ業界、そして NASA 等の学術機関をどのように巻き込み進展し、財政、技術、文化的課題を克服してきたかについて言及されました。その成果の一部にはサーチエンジン google の開発、そして米国議会図書館の American Memory など日本でもなじみのあるものも含まれています。まとめとして、今後の電子図書館の課題となる、「人」を中心に置いた展望について述べられました。

講演後の討議では、学内外からの参加者から活発な意見交換が行われました。



INFORMATION

本学関係の新聞記事掲載一覧（15年1月分）

	記事	月日	新聞等名
1	医学部・同学部附属病院「医局講座制」を解体し4月から臓器別6内科と大講座制に完全移行 患者本位の医療を目指す	1.1(水)	中日(朝刊)
2	森林の持つ多面的な機能を活かす研究 生命農学研究科助手・大浦由美さん	1.4(土)	朝日(朝刊)
3	鎖国期も技術交流? 欧州の自動人形・日本のからくり人形 動きや構造同じ 職人・研究者(末松良一・工学研究科教授)訪欧で手応え	1.4(土)	中日(夕刊)
4	愛知県医師会 苦情処理に第三者機関を開設 対策委員会が運営 委員長は島田康弘・医学部教授	1.5(日)	中日(朝刊)
5	夢ロボットやって来た 福田敏男・工学研究科教授の研究室をこども記者が訪問	1.5(日)	中日(朝刊)
6	万博と市民の垣根を低く 後房雄・法学部教授を中心に「フォーラム」参加の枠組みづくり議論	1.5(日)	朝日(朝刊)
7	「宇宙天気図」ネットに 太陽風の放送障害を予報 太陽地球環境研究所が完成	1.5(日)	朝日(朝刊)
8	弱視を克服 国家公務員採用 種試験に合格 法学部4年・野々部由希さん	1.5(日)	中日(朝刊)
9	土方和雄名誉教授 肝臓がんのため死去	1.6(月) 1.7(火)	中日(朝刊)
10	名大サロンの主役:福井康雄・理学研究科教授 南米での星の一生を解明	1.7(火)	中日(朝刊)
11	ペーパーナイフ:カメの生態系「イシガメがまだ多く残っている。身近な自然環境が大事」小沢智生・環境学研究科教授	1.7(火)	中日(朝刊)
12	国際開発研究科で講演会「ドイモイと法制度改革」講師はグエン・ディン・ロック元ベトナム司法相	1.7(火)	中日(朝刊)
13	サロン:国立名古屋病院の臨床研究センターが国指定に 内海真センター長・医学部卒に話を聞いた	1.7(火)	読売
14	求められる知事像:“縦割り行政”を横の連携が強い行政に改善を 法学部3年・高嶋舞さん	1.7(火)	中日(朝刊)
15	目耳録:「勉強ができるなんて夢みたい」本学シンポジウムに招かれたアフガニスタンの少女	1.7(火)	中日(夕刊)

	記事	月日	新聞等名
16	イチョウ葉でアレルギー 岐阜大教授が原因物質の試薬開発に成功「商品化の意義大きい」大澤俊彦・生命農学研究科教授	1.8(水)	中日(朝刊)
17	トヨタ自動車・中部電力・JR東海中高一貫校を計画「大学改革の契機のひとつになる」伊藤正之副総長	1.8(水) 1.9(木)	日経(朝刊) 日経(夕刊) 他3社
18	愛知県と名古屋市が研究機関や企業と協力 名大が開発した原子・分子濃度の測定技術をベースにナノテクノロジー分野での共同開発へ	1.9(木)	日経(朝刊)
19	理系白書:師の「殻」破ってこそ「先生と同じでは、独自のものは生まれない」八島栄次・工学研究科教授	1.9(木)	毎日(夕刊)
20	細胞培養で産学連携 サッポロビール工場跡地に再生医療のためのバイオ工場を建設構想 上田実・医学系研究科教授らのグループが提唱	1.10(金)	読売
21	ひととき:環境教育を次の段階へ「環境教育ナビゲーター」の説明会 環境学研究科会議室で	1.10(金)	中日(朝刊)
22	埋もれた技術生かします「知恵袋企業」が産学連携を後押し 研究成果の実用化・起業、円滑に 工学研究科・小林猛教授らの開発したがん新治療薬の基本技術、実用化に	1.10(金)	日経(朝刊)
23	叙任叙勲 正四位勲三等瑞宝章 高山一男名誉教授	1.11(土)	中日(朝刊) 読売
24	法科大学院設立全学シンポ 文系総合会館7階カンファレンスホール テーマは「創造性と総合性に富んだ法曹教育を目指して」	1.14(火)	中日(朝刊)
25	知力国家:再生医療の空洞化防げ「再生医療は特許が取れないので、事業化されない」上田実・医学部教授	1.14(火)	読売
26	ひと:「授業をするのが好き」京大基礎物理研究所所長 益川敏英さん 坂田氏の元で物理学を学び、「坂田・早川記念レクチャー」で第一回の講師を務めた	1.14(火)	中日(朝刊)
27	附属図書館商議員会が館長に伊藤義人教授を再任	1.14(火)	中日(朝刊) 読売

	記事	月日	新聞等名
28	県立高初一貫教育 設楽、津具中・田口高 県内では国立の本学附属高校と同中学校ですすでに実施、私立でも来年度から一校で実施される	1.16(木)	読売 毎日(夕刊)
29	南海・東南海地震 急がれる被害対策 「地震の型に即し対応を」 安藤雅孝・環境学研究科教授	1.16(木)	読売
30	前立腺がん高齢者に急増 「早期発見で高い治癒率。60歳を過ぎたら定期的に検査を」 大島伸一・附属病院長	1.18(土)	中日(夕刊)
31	数理ウェーブ 講師は三宅正武教授、大沢健夫教授・多元数理科学研究科	1.21(火)	中日(朝刊)
32	学生街ダンス：PARTY！ PARTY！！選挙を身近に感じる 名大2年・丹羽亜衣	1.21(火)	中日(朝刊)
33	「高等教育院」の看板研究者15人選定 教授会や講義免除、研究に専念 院長・野依良治教授	1.22(水) 1.23(木)	日経(朝刊) 他5社
34	叙位叙勲 従四位 中川清名誉教授	1.22(水)	読売 中日(朝刊)
35	農学国際教育協力研究センター協議会が センター長に竹谷裕之教授を再任	1.22(水)	中日(朝刊)
36	法科大学院について考えるシンポジウム テーマは「創造性と総合性に富んだ法曹教育を目指して」 法学研究科と他の研究科の教員が活発に意見を交わした	1.22(水)	読売
37	大学生の就職活動を支援するセミナーが本学で開かれた 「人生は一度...迷ったらやる」学生らにエール	1.22(水)	中日(朝刊)
38	東海地震 各地で助成制度創設 「ゆっくり地震」って？ 地震火山観測研究センター長・藤井直之さんに聞く	1.22(水)	毎日(朝刊)
39	2005考 私の愛知万博論：市民フォーラムで万博の経過を徹底検証 後房雄・法学研究科教授	1.22(水)	朝日(夕刊)
40	多元数理科学研究科委員会が新科長に浪川幸彦教授を選出	1.23(木)	中日(朝刊) 読売
41	医学系研究科 医療行政のプロ育成 アジア諸国の留学生対象の「医療行政コース」を修士課程に設けた	1.23(木)	中日(朝刊)
42	頑張れ名古屋勢 名岐駅伝チーム紹介 本学、昨年は最高の9位に	1.23(木)	中日(朝刊)
43	遺伝子がすべて?:お酒が飲めないアルデヒド脱水素酵素(ALDH2)のLys型 民族超えた血縁を示す 浜島信之・医学系研究科教授	1.24(金)	中日(朝刊)
44	国立大 大学院生に「給与 新しい助成制度が後押し 理学研究科は約20人の博士課程の学生に年間100万円程度支給	1.24(金)	日経(夕刊)

	記事	月日	新聞等名
45	本学脳外科セミナー「脳画像と脳卒中医療の最前線」 テレビアホールで開催	1.25(土)	中日(朝刊)
46	桐谷道雄名誉教授 原発性肝臓がんのため死去	1.25(土)	中日(朝刊)
47	知事を選ぶ：教育問題 少人数授業、生き生き 「県は独自の教育を伸ばすよう支援すべきだ」中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授	1.26(日)	読売
48	明日の人に：もっと青春を謳歌して 平井勝利・教養教育院長	1.27(月)	読売
49	肥満と関連 ミトコンドリア解析 本学のグループと岐阜県国際バイオ研究所	1.27(月)	日経(朝刊)
50	名岐駅伝競走成績 一般の部 本学9位	1.27(月)	中日(朝刊)
51	重体のドナー母 附属病院で摘出 肝臓移送 京都大病院でドミノ移植へ 13年余で初	1.27(月) 1.28(火)	中日(夕刊) 他2社
52	「木曾馬」の研究拠点 長野・開田村に恩返し 自作の「そば音頭」寄贈 富田武名誉教授	1.27(月)	毎日(夕刊)
53	駅で電車で女性活躍 「対応がソフト」乗客の評判は上々 「施設充実のためのコスト増は社会的要請として受け入れるべきだ」北川隆吉名誉教授	1.27(月)	中日(朝刊)
54	Q ひどい生理痛、骨盤矯正の適否 A 血流の悪化、考えにくい... 症状がひどい場合には必ず産婦人科の診断を 水谷栄彦・医学部産婦人科学教授	1.28(火)	読売
55	「大学改革を考えるアピールの会」(代表・池内了・理学研究科教授) 「国立大学法人化法案」に反対する呼びかけ国立大教授ら13名	1.29(水)	朝日(朝刊)
56	半導体関連分野「新技術説明会」の概要 「MOSデバイスおよびその製造方法」安田幸夫・工学研究科教授	1.29(水)	日刊工業
57	老年学：高齢者社会への準備不足 井口昭久・医学系研究科老年科教授	1.30(木)	朝日(朝刊)
58	世界最強の超電導磁石 日本人研究員2人が開発 「大型化にどこまで耐えられるか注目したい」水谷宇一郎・工学研究科教授	1.30(木)	毎日(朝刊)
59	NASAと本学共同で 総合的な降雪・降雨の観測	1.30(木)	毎日(夕刊)
60	こう見る：広域行政の推進 伊勢湾を扇の要に 奥野信宏・学長特別補佐	1.31(金)	中日(朝刊)
61	「アフガニスタン女性支援シンポジウム」国際開発研究科で開催 中西久枝・国際開発研究科教授が「近代化・イスラム化と家族関連法-革命後イランの事例から」のテーマで話す	1.31(金)	中日(朝刊)
62	化学測定機器センター協議会が上村大輔センター長を再任	1.31(金)	中日(朝刊)

ちょっと名大史

シンポジオン (創立五十周年記念施設)

シンポジオンは、前回・前々回で取り上げた旧古川図書館や豊田講堂と同じく、本学の記念施設の一つです。同施設は、会議室（シンポジオンホール）、レストラン、ティーラウンジ、研究室等を備えた3階建て複合施設で、1992年に竣工・開館しました。

1984年以降、本学では、名古屋帝国大学創設から起算してちょうど50年にあたる1989年に向けて、創立五十周年記念事業が企画されました。同事業では、名古屋大学史の編纂・刊行や学术交流基金（仮称）の創設などと並んで、記念施設の建設が行われることになりました。当初、その記念施設については、国際会議場、同窓会館、総合体育・文化施設、合宿研修・保健施設の4施設のいずれかを建設することが計画されていましたが、最終的には「名大会館（仮称）」を建設することになりました。この「名大会館（仮称）」が、今日のシンポジオンです。

シンポジオンは、1987年に発足した学外組織である名古屋大学創立五十周年記念事業後援会（初代会長は竹田弘太郎名古屋商工会議所会頭）が建設し、名古屋大学に寄付したものです。当初、職員会館に隣接して建設される予定でしたが、その後、豊田講堂との一体的な運用もできるように現在の場所（豊田講堂の東隣）での建設に変更されました。

なお、建物名称については、ギリシア語の「シポジオン」が「饗宴」「饗宴の参加者」「饗宴が行われる部屋・場所」を意味することから、学術研究の成果発表等交流の場にふさわしいものとして「シンポジオン」という名称が採用されました。



中央手前（👉部分）がシンポジオン、その奥が豊田講堂



名古屋大学シンポジオン



(東山キャンパス)

名古屋大学の歴史に関する記念碑・記念物に関する情報をお持ちでしたら、
大学史資料室（052-789-2046）へご連絡下さい。